



小池 光選

入学式に七重八重とふ双子姉妹の美しき名あり
し戦後四年目 横浜市 山本喜太郎

【評】子供の名前がものすごく変容した。とても読めない、ふしぎな名前が氾濫している。双子の姉妹「七重ちゃん」「八重ちゃん」という。なんとシンプルで美しい。

猛暑日の荻外荘はしずまりて自決の部屋がそのまにあり 東京都 青木 公正

【評】荻外荘は戦前の政治家近衛文麿の別邸。昭和史を彩るさまざまな会合が行われ、戦犯追求を恐れて、近衛文麿はここで自決した。炎暑の日、ひっそりと暗い歴史の前に佇む。バス停に文庫本読む人のあり異国で和服の人見た感じす 所沢市 岡田 陽一

【評】みんなスマホをいじっているのに、文庫本読む一人。めずらしい。下句の見立てがおもしろく、いかにもそういう感じ。

「老衰」とは人生とことん生き抜いたみごとな証し美輪さん逝きぬ 福山市 金尾 洵子

ナガサキで被爆されたる美輪ちゃま逝く愛と平和のかかり火残し 宇都宮市 大門とよ子

「墓碑」と「薔薇」を漢字で書けたとき「まだいけるよ」と自分励ます 浜松市 秋原 容子

「嗅いでみる」兄が差し出す合歡の花桃の香がした故郷の道 大東市 若槻 豊彦

朝剃りしあごに伸びたるヒゲなでて過ぎし一日たしかむ風呂場 東京都 大室 英敏

昔むかし百万ドルの夜景とも呼ばれし山にちちははの墓 松山市 夕月 秋人

蟬しぐれ胸に沁むなり一合の米研ぐ老いの夏の夕暮れ 足利市 熊田 敏夫

栗木 京子選

古民家を公民館にとゆずり受け仏間のテレビに老人憩う 近江八幡市 大川 勇

【評】古民家を譲り受け、地域の人たちの集いの場を作った。かつては立派な仏間だったところに今はテレビが置かれ、皆で楽しんで観ている。住居も生き物なのだと思う。

梅雨前線リレーしてゆく日本列島「朝のリレー」という詩を思い出す 東京都 山本 由美

【評】五月中旬から七月下旬にかけて発生する梅雨前線。日本列島を移動してゆく。前線の動きに谷川俊太郎の詩「朝のリレー」を重ねたことで宇宙的な豊かさが生まれた。撫でる手が止まればすぐに自分から頭を揺らす熱のある子は 北海道 登 ゆう

【評】高熱を出した子はやさしく撫でてもらうと安心するのであろう。「自分から頭を揺らす」というしぐさが健気で切ない。

年旧りて姉に妹に逢へぬまま生家の居間のケン力なつかし 東京都 榎 正好

幼き日触れし賢治を読みかへし祈りの深さ知りてたたくむ 横浜市 北見 美保

お隣りの若夫婦の飼う愛犬はルディックとカティア憶えられんわ 岡崎市 三井 順子

朝採りの初収穫の枝豆に我を忘れて真昼のビール 仙台市 古谷 隆男

ジャスミンの白は咲き満ち香り立つ昼寝の二歳の小さな寝言 新潟市 古泉 浩子

旅先の公衆電話ありがたしホコリにまみれ蜘蛛の巣張れど 船橋市 花沢富美雄

さよならが絵になりそうな雨の日の橋の向こうで手を振る君よ 横浜市 杉本 恭子